

毎週日曜発行
2020 5/31

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

あなたの隣の外国人

加美町は東京パラリンピックに向けて、チリの「ホストタウン」になっています。サラビアさんは通訳と、町の人にチリの特徴や文化を紹介する仕事などを行っています。

サラビア・カタリーナさん(25) チリ出身／宮城県加美町国際交流員

第5日曜の1面は東北で暮らす外国人を紹介する「あなたの隣の外国人」。初回は宮城県加美町で国際交流員として働くチリ出身のサラビア・カタリーナさん(25)に注目したよ。



日本のアニメを見て日本に興味を持ちました。「ドラえもん」が好きで



活躍。「チリで使われているスペイン語を日本語に的確に訳すのは難しいけれど、大きなやりがいがある。大好きな日本とチリの懸け橋になれてうれしい」と意欲的です。

ドラえもんで日本に興味



加美町がチリのホストタウンになったことを説明するサラビアさん

「のび太が畳に布団を敷いて寝る姿に『床で寝るの?』って驚いた。ドラえもんの好物のどら焼きがどんな味なのか、食べてみたかった」

出身地の首都サンティアゴには日本人の友人もいて日本語を勉強し、大学4年生で大阪に1年間留学。帰国後に任期付き国際交流員に採用され、加美町に赴任しました。

大都會のサンティアゴとは違い、田畑に囲まれた加美町での生活は驚きの連続。でも「静かで自然豊か。町の人も親切」と楽しんでいきます。今では方言も使えるようになったそうです。



新型コロナウイルスの影響によるパラリンピック延期で今年の事前合宿は中止になりましたが、来年の開催を信じて「チリの選手に活躍してほしいし、日本の人にも応援してほしい。そのためにも、もっとチリをアピールしたい」と両国の交流促進を目指しています。

よく使う方言は「ねっばす(貼る)」だって。日本が大好きなのが伝わってきて、かほピョンもチリのことをもっと教えてほしくなったよ。

今週の注目ニュース

◇6月4日(木) 虫の日
1988年のこの日、福島県常葉町(今の田村市)が「カブトムシ自然王国」として独立を宣言し、その記念に制定したよ。葉タバコの肥料にカブトムシの幼虫がたくさん育つことから、町おこしに生かしたんだ。

きょうの紙面

- 2面 明るさ戻ったベテルギウス
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 休校中どうしてる?
- 6面 絵でわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ